

地域コミュニティ協議会名称

桃山校区コミュニティ協議会

活動名称

桃山地区元気な活力ある世代創出事業(三世代交流)

世帯数

約4,910世帯

活動内容

校区全体の健康増進と世代間交流を図るためのイベント開催を継続しています。

- ①エアロビクス体操（今後は、ゆったり体操など）
- ②綱引き大会（公式ルールにて）
- ③餅つき大会（その他、とん汁など）
- ④etc

世代の垣根を越えて出来る『体操』を行い有酸素運動にて、日頃の運動不足を解消し、日常でも活用可能な運動を取得し健康増進を図るため実施しています。

綱引き大会を開催し、地区毎や年齢毎など階層別展開を行い、全国大会を目指す所存です。

餅つき大会を全員体験参加型で行い、子ども用杵も用意し老若男女含め心をこめて突いた餅を食べながら地域交流を図ります。

事業運営には、地域を代表する企業及び学校のボランティアにて遂行し地域連携を重視して活動します。

安全面においても、細心の注意を払い、臨港病院様の協力を得て不測の事態に備えています。



実績・効果

地域の健康増進は、毎日の運動が重要である事が理解出来、健康に対する意識向上が高まることを期待します。

団体競技をとおして、地区毎の連携の大切さと全国大会という共通の目標が生まれ継続事業となります。

餅をたべる過程で様々な人との意思疎通と協力があつて出来ることを体験し、調和と同情する心や態度の必要性を再認識する事が出来ます。

地域コミュニティ協議会名称

下山地区コミュニティ協議会

活動名称

下山地区スポーツフェスティバル(下山オリンピック)

世帯数

約4,600世帯

活動内容

下山地区の小中学校は新潟市内でも最も歴史の浅い学校の一つです。日本海と大阿賀野川の左岸に接し、秀峰五頭を仰ぎ見る絶好のロケーションにあります。また、空の玄関「新潟空港」を校区に持ち、旧来の農家と新興住宅が隣接する自然豊かな地域です。

そうした環境の中で、新旧の地域住民の親睦と世代交流の一助になればと企画実行されたのが標題の「下山地区スポーツフェスティバル」です。地区のほとんどの自治会が参加し、町内対抗の熱のこもった数々の競技が実施されます。若いお父さんお母さんの真剣な応援にこたえて上がらない脚を必死で持ち上げ、目の色を変えて走るおじさんの顔は圧巻です。恥ずかしさを忘れてあんぱんにかぶりつくおばあさんの顔も負けずに圧巻です。

そうして下山の秋の一日が過ぎて、やがて五頭の山頂が白くなり、阿賀野川では鮭漁の赤い浮が水面を飾ります。

私たちはこの美しい自然を守り、地域住民が仲良く暮らせる町づくりをこれからも進めたいと思います。



実績・効果

今年が第11回大会でした。参加自治会数16、参加人数837名の名実ともに下山地区コミュニティ協議会の一大イベントとして定着しました。平成21年度の第12回大会から名称を「下山オリンピック」と改称して継続して行きたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

東中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域の茶の間

世帯数

約3,800世帯

活動内容

東中野山小学校区コミュニティ協議会では、平成20年の4月より東中野山地区にお住まいの皆様が気軽に交流でき、仲間作りのできる場所として「地域の茶の間」を月2回、第2・第4木曜日に会費100円を頂いて、猿ヶ馬場自治会館において、10時～3時まで開催しております。

4月と5月には「りんごの会」の方より、新潟弁での昔話の講話、7月には慰問サークル「松風の会」さんをお招きして、腹話術や手品をみなさまにお楽しみいただきました。また、お手伝いをいただいている方々の御協力によって、お茶を立てていただいて、お茶の作法を教わったり、編み物、手芸などをして楽しく過ごしております。女性の参加者が多く喜んでおりますが、多世代（子育て中のお母さん、男性）の方の参加がもう少し、増えてくれたらと思っております。



実績・効果

平成20年6月からのゴミ収集についての疑問に思った事など、教えあったり、時々ニュース、孤独感の解消や高齢者の方の介護予防の情報交換の場や仲間作りの場所になってくれたらと思います。

近頃は参加してくださった方の顔も覚え、スーパーで買い物をしている時など気軽に声がけができるようになりました。

これからも、多くの方々から参加していただけるように努力したいと思っております。

地域コミュニティ協議会名称

大形地区コミュニティ協議会

活動名称

大形ふれあいウォークラリー

世帯数

約5,520世帯

活動内容

大形地区を中心に身体障がい者・精神障がい者・地域住民とのふれあいを目的として、津島屋公園運動広場周辺を一回りした後、小学生の樽はやしや全員でゲームをしたりして楽しんでいます。

また、小学校、中学校はもとより、高校、県立新潟女子短期大学の学生さんからもご参加いただき、学生間交流も行われております。



実績・効果

大形地区の児童・障がい児・高齢者の健全な育成と福祉の増進に寄与するため、平成20年度で13回目の大イベントと位置づけており、地域住民の連帯感の醸成及びふれあいの効果があったと思われ、地域住民の障がい者に対する理解が深まりました。

また、事業後には、小学校・中学校・高校・特別支援学校との間で交流が図られるなど、教育現場において新たな取り組みへの一助となりました。

地域コミュニティ協議会名称

南万代小学校区コミュニティ協議会

活動名称

ふれあい給食活動

世帯数

約4,500世帯

活動内容

ふれあい給食活動は、昭和58年に設立された南万代小学校区在宅福祉活動推進委員会の事業の一環として始められました。

- ①70歳以上の一人暮らしの世帯
- ②80歳以上の高齢者世帯
- ③寝たきり高齢者とその介護者
- ④65歳以上の身体障がい者

などを対象に、年4回、1回当たり平均100食を手づくりで調理し、配食しています。

当初は、南万代小学校区の一部地域（東地域）のみを対象として実施してきましたが、コミュニティ協議会の設立により平成20年度から南地域の一部対象者にも配食することとして、今後、校区全域の対象者に実施する予定です。



実績・効果

「買い上げ弁当は、高齢者向きでない。栄養面で偏っている」、「少しでも一人暮らしの生活を潤わせ元気づけるためにも、真心のこもった手づくり弁当」ということで、手づくりに切りかえ、そのよさが評判を呼んで、多くの希望者がいます。

対象地域を広めることによる、調理場所・従事者確保などの課題も多いのですが、サービスの浸透とともに、地域とのコミュニケーションも深まり、住みよいまちづくりの形成が期待されています。

地域コミュニティ協議会名称

万代地域コミュニティ協議会

活動名称

福祉施設等研修視察会

世帯数

約2,600世帯

活動内容

当地区における諸課題に取り組むための勉強会としての研修視察を開催しました。

実施日 平成20年2月29日 バス1台をチャーターし自治会・町内会長および民生・児童委員など、25名の参加がありました。

コースは白根や黒埼方面・駅南・ほんぼーと周辺

1. 旧万代小学校の跡地にかかわるもの

旧木場小学校跡について現場担当職員の説明を受け、発掘資料庫として利用している建物を見学しました。

2. 新規に明石通に建設が決まった福祉施設白根慈恵会についての内容

明石通に建設予定の施設の概要説明を受けました。その後、「白根やすらぎの里」「白根やすらぎの里ケアハウスやすらぎ」を案内いただき説明を受けました。

3. 駅周辺の開発状況

駅南開発工事現場を見学しました。

4. ほんぼーと周辺道路整備問題

ほんぼーと周辺の道路開発状況について資料に基づき説明を受け見学しました。

実績・効果

当地区における福祉施設の建設は初めてであり関心も高いものでした。

特に急な企画にもかかわらず、民生・児童委員の参加も多く、現在の福祉施設における現場の状況についてよく知ることができました。

今後の高齢化社会への地域としての対応、災害時支援のあり方にも関連があり参考となりました。

ほんぼーと周辺については地元ながら市よりあまり説明がなされていないとの総会等の発言を受け周辺整備について確認を行ないました。

地域コミュニティ協議会名称

長嶺地域コミュニティ協議会

活動名称

長嶺ふれあい給食会活動

世帯数

約 1,700 世帯

活動内容

平成7年、長嶺地区の高齢者の方々に手作りの給食サービスをと、長嶺地区連合町内会（主催）、東地区公民館、市食生活改善推進委員、地区民生・児童委員、日赤奉仕団など、大勢の人々の協力で始められました。月1回手作りによる給食、配食を実施しながら高齢者とのふれあいの機会を増やし、元気で長生きしてほしいと願い、世間話をしながら何気ない中に見守り、見守られるということができているのではないかと思います。

配食数も年毎に増え、現在では70食以上になり、30人近くのボランティアで活動しています。中には80歳を過ぎた方も、一生続けられるボランティアと、生き生き活動しています。毎年9月には「お楽しみ会」を、公民館の共催を得て開催しています。高齢者と万代・長嶺保育園児との交流、公民館利用者によるアトラクションやお弁当昼食会を行い、にぎやかに世代交流が行われています。

平成20年7月には地区の高齢者の生活アンケートを、東地域保健福祉センターの協力を得て、地区民生・児童委員と共に実施しました。高齢者とのふれあいの機会になると同時に、高齢者の心身の健康のことや生活実態を知ることができました。

今では活動が広がり、コミュニティの部活動の中の健康福祉部として、コミュニティ活動の様々な活動に参加し、幅広く組織として機能を発揮しています。



実績・効果

長嶺地域は高齢化率が年々高くなっています。高齢者がより元気で生活することの大切さが求められています。健康長寿が一番です。健康福祉部としては、高齢者だけでなく老若男女大勢の人々に、健康に関心を持ってほしいと願っています。「私達のまち、私達の健康は、私達の手で」

地域コミュニティ協議会名称

紫竹山校区コミュニティ協議会

活動名称

講演会「老化は脚から」

世帯数

約4,700世帯

活動内容

紫竹山校区コミュニティ協議会の健康福祉専門部会では、介護が必要となる原因の50%以上が老化現象によるものといわれている事から、「老化は脚から」という講演を平成20年10月26日（日）に駅南コミュニティセンターで開催しました。回覧板でチラシを4,600枚配布しご案内したところ、当日は高齢者だけでなく若者の参加もありました。

講師は、新潟南病院リハビリテーションスタッフの皆さんにお願いし、

- ・「転倒予防に対する知識と簡単な運動」
- ・「口腔ケア（管理）」

について講演していただきました。

「転倒予防に対する知識と簡単な運動」では、話を聞くだけでなく、実際に体も動かし、「口腔ケア（管理）」では、入れ歯の管理などについてのお話がありました。

実績・効果

実際に体を動かしてみて、思ったほど体が動かないことや、入れ歯の手入れ方法、歯の重要性などがわかり、自分の健康について再認識できました。

転ばぬ先の杖ということか、参加者の皆さんは一生懸命取り組んでおられ、いろいろな交流を交わし、時間が過ぎることも忘れるほどでした。

地域コミュニティ協議会名称

両川地区コミュニティ協議会

活動名称

敬老会

世帯数

約 1,100 世帯

活動内容

地区のお年寄りがこれまで歩んできた長い人生における努力を称え、その労苦に対し感謝の意を表し、長寿を祝うとともに住民の敬老精神の高揚を図ります。

平成20年度は380名が参加し、駐在所長からの交通安全、振込め詐欺などについての講話を聞き、昼食を食べながらアトラクションで楽しんでもらいました。

アトラクションには、地区の皆さんによる踊り、コーラス、酒屋・割野小学校の児童による合唱、両川中学校の生徒によるブラスバンド演奏が行われました。



実績・効果

1カ月半程前からコミュニティ協議会、自治会、婦人部、学校、生徒、警察、社会福祉協議会、江南区が連携、協力して準備を行い、当日の昼食を挟んだ一時を地区内のお年寄りにゆっくり楽しんでもらいました。

地区住民あげて盛り上げることで、お年寄りへの敬老の精神を一層高めてもらう良い機会となりました。

地域コミュニティ協議会名称

小林コミュニティ協議会

活動名称

小林ふれあい地域づくり事業「こばふれ」

世帯数

約 1,140 世帯

活動内容

「高齢になっても、障がいがあっても、安心して暮らせる地域づくり」をテーマに、活動しています。普段から地域の人と声をかけ合って暮らしていることで、何かあったときに助け合うことができ、それが高齢になっても障がいがあっても安心して暮らせることにつながります。小林ふれあい地域づくり事業では、地域に住む皆さんが地域の人とのふれあいを大切に、支えあいの精神を持ち、できるときにはできることを助け合い、できないことは手伝ってもらうことが普通にできる「ふれあい地域づくり」をめざしています。

- ・個人としては、ふだんから地域の人とのふれあいをたいせつにしよう。子どもの頃から地域のふれあいの場に参加し、ふれあいの楽しさを知ろう。高齢になっても障がいがあっても、声を掛け合ってふれあいの場に積極的に参加しよう。
- ・家族としては、高齢になっても障がいがあっても閉じこもらずに、地域のふれあいの場に参加するようすすめよう。
- ・地域住民としては、地域づくり活動に関心を持ち、それぞれができることに積極的に参加しよう。高齢になっても障がいがあっても、それぞれの役割を発揮し、地域活動に参加しよう。
- ・各種団体としては、各種団体が地域の人とのふれあいを大切に、関係団体や関係機関と一緒に、それぞれの事業に取り組もう。

以上のことを方針に活動をしています。



こばふれ定例会



こばふれ一座（敬老会）

実績・効果

毎月第3火曜日に定例会を持ち、直近の地域事業の運営方法及びマンネリ化の見直しを図っています。現在は、こばふれ委員を元気部会（登山班）・仲良し部会（茶の間班）・キャット部会（PR広報宣伝班）・こばふれ一座部会（敬老会班）に分けて、それぞれ責任を持って携わり、また、他の部会の手伝いも戸惑うことなく行えるようになりました。

地域コミュニティ協議会名称

真砂小学校区コミュニティ協議会

活動名称

介護予防活動 「うきうき元気塾」

世帯数

約4,050世帯

活動内容

真砂小学校区地域には病院や歯科専門の短期大学が、また近隣地域にも病院、介護施設等が数カ所あり、医療や介護という面では恵まれた地域です。

わが地域も高齢化が進み、65歳以上の高齢者は4人に1人の割合になっています。高齢化が進んでも、援護や介護が必要にならずに皆元気に暮らしていけるように何かを企画し、実践していこうと、福祉部ではたびたび会合を開きました。

3月には新潟福祉医療学園の介護支援専門員の方をお招きして「ほのほの予防介護」の講演会を開催しました。この講演会が終わった後、参加された皆さんは「良かったね」と言いながら解散しました。

これを契機に次の催しにつないでいこうということになり、この後何をやるか、福祉部で話し合った結果、この地域には歯科大学があるので、協力をお願いして「歯に関すること」をテーマとすることになりました。

10月に、西区役所健康福祉課と真砂小学校区コミュニティ協議会共催、明倫短期大学協力で第1回目の真砂地区介護予防の活動として「うきうき元気塾 in 真砂」を開催しました。

内容は「お口は毎日の脳活性化の基本」というテーマでお話とゲームです。歯科衛生士さんや歯科衛生学科の学生ボランティアさんと一緒に、まずビデオを観ながらお口の体操です。ガムを噛み、口を動かしてリラックスしながら、お話を聞きました。そのほか脳活性化メニューの実施です。ロープを使って前・後・左・右！そしてお手玉ゲーム、2～4拍子の歌に動きをつけて歌いましょうなどなど、身体と頭を同時に動かし、出席された皆さんはにこにこ楽しんでいらっしゃいました。



実績・効果

身体と頭を同時に使いながら楽しめたことは、老化予防には効果的でとても良い企画であったと思っています。この種の催しは継続する事によって効果が期待できるでしょう。少人数（30人前後）で行うのが適当と思われるので、地域の中で場所を変えて同じことを何度も繰り返して良いのではないのでしょうか。ぜひ、2回目、3回目、とつないでいきたいと思えます。また、専門家の協力や行政との協働は不可欠であることを痛感しております。これからも一步一步地道に進めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

黒埼南ふれあい協議会

活動名称

救急法講習会と水辺公園ウォーキングの実施

世帯数

約 1,070 世帯

活動内容

黒埼南ふれあい協議会は四つの事業部からなり、生活環境部会は「安心・安全な地域づくり運動」、健康福祉部会は「救急法講習会と水辺公園ウォーキング」、教育文化部は「みんなで“よもぎ団子をつくろう”」、広報部会は「身近な話題や活動の様子を随時に」のテーマを掲げて活動を行ってきました。

このたびは、健康福祉部会の活動の特集いたします。

平成20年7月に救急蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の活用法を、夏場を迎えて、屋外での活動が多くなるにつれ、災害や事故、特に夏場の水の事故など、子どもに限らず地域での緊急時に応急手当が必要になることも予想されるということで、当協議会健康福祉部会と黒埼南小学校PTAが呼びかけて実施しました。

講習会当日は、地域住民や保護者約70人が参加して、新潟市西消防署黒埼出張所の小隊長以下4人の隊員が指導されました。最初に応急手当についての講演があり、講師は「救急車が来るまで手をこまねいていると救命のチャンスは大きく遠ざかる。応急手当は「勇気」と「やる気」があれば、人の命は助かる可能性が大きい」と強調していました。引き続き、けがや病気におそわれた時の対応について実技指導を受けました。

平成20年10月には、「健康づくりは運動から」のテーマを掲げて板井、木場、黒鳥、北場地区の住民に呼び掛けて、黒鳥地区水辺公園（緒立橋～新田橋）内をウォーキングしました。ウォーキングは気軽にできるスポーツです。ただ「歩く」だけでなく、風景を眺めながら、会話を弾ませながら、カラダと心を癒し、地域交流も果たすなど楽しい時間を過ごしました。



実績・効果

救急法講習会参加者は、救急蘇生法とAEDの活用法の具体的な知識と技術を学ぶことができました。また、広報紙を通じて地域住民にも分かりやすく解説をいたしました。ウォーキングについても、身近な健康管理法であることの啓発を紙面を通じて行いました。

地域コミュニティ協議会名称

漆山地域コミュニティ協議会

活動名称

平成20年度漆山地区敬老祭

世帯数

約1,100世帯

活動内容

漆山地域は旧巻町の区域内にあり、昭和30年1月1日、他の4村（峰岡村、松野尾村、角田村、浦浜村）とともに巻町と合併した旧漆山村の区域から成っており、北陸自動車道巻潟東インターチェンジ周辺の都市計画用途地域指定部分を除くと、ほとんどが水田で占められている地域です。

昭和43年から9月15日が「敬老の日」として祝日となっていますが、当地域ではそれよりかなり前から、地域の高齢者を敬い、感謝の意を表し、幸せをお祈りする「敬老祭」を毎年開催してきており、記録がないため正確な開始時期及び当初の実施主体は定かではありませんが、おそらく50年近い歴史があるものと思われます。

近年は、西蒲区社会福祉協議会の下部組織にもなっている漆山地区社会福祉協議会が、自治会長、民生委員、福祉女性部などの協力を得て実施しています。

漆山地域コミュニティ協議会が平成18年8月に設立されたことにより、協議会の活動・事業計画を協議する中で、地域における大きな事業の一つである「敬老祭」をコミュニティ協議会の主催で実施することとし、実務の主管については社会福祉協議会に担っていただきながら、平成20年10月5日の日曜日、漆山小学校体育館を会場にして220名余りの高齢者を招待し「敬老祭」を実施しました。



実績・効果

平成20年度は初めての試みでしたが、地域のさまざまな組織・団体等で構成されているコミュニティ協議会的主催とすることにより、これまでの自治会長・民生委員・福祉女性部の協力はもちろん、保健福祉部会を中心とした協議会の支援が可能となり、地域が一体となって実施するという機運の醸成が図られ「敬老祭」の意義が一層高まっていくものと考えています。